



10月26日第9回幹事会。できたてのTシャツを着て記念撮影

在京飯田高校同窓会・総会報告「幹事団後日談」 32回生をつないでできたもの、 そしてこれから

西岡美由紀 (高32回)

「今年の在京同窓会は私たち32回生が幹事です。まず集まって、幹事会を始めましょう！」という連絡を受け取ったのが2017年1月でした。在京飯田高校同窓会については、『稲穂』に載っているのを見たことがある程度で一度も参加したことがなく、32回生の中でつながりのある人もほとんどいない状態でしたが、37年ぶりに同期生と会ってみようかな……そんな軽い気持ちで1月28日(土)の幹事会キックオフに参加しました。

37年ぶりの再会で生まれた絆

萩窪で行われたキックオフには32名の同期生が参加。ほとんどの人と卒業以来37年ぶりの再会となりました。高校時代の面影そのままの人、全く変わってしまった人、覚えていない人……思い出や近況などを話しているうちに、「在京飯田高校32回生」というつながりのおかげで会

会とすることです。牧野光朗飯田市長の講演は当初から決まっていたのですが、32回生の中に作曲家と声楽家もいたことで、プログラムはぐっと華やかなものとなりました。

もうひとつの目玉企画は、飯田高校オリジナルTシャツ。同窓会会計と別枠でTシャツを制作し、同窓会当日販売することを役員会で承認していただきありがたかったです。Tシャツには、風越山とIIDAの文字をデザ



●にしおか・みゆき
旧姓・中平。飯田市松尾出身。
お茶の水女子大学理学部卒業。
1984年万有製薬(株)(現MSD
(株))入社。研究所、営業企画部、
社長室など歴任。2008年から
大塚製薬(株)広報部勤務。最近、休
日はゴルフでリフレッシュ。

えたことの共通の喜びが37年間ものブランクを埋め、みんなの一体感が生まれたことを感じました。

毎月の幹事会で企画・準備

2月から毎月1回幹事会を行い、11月11日に向けた準備をしていくことになりました。幹事の中で在京同窓会に参加した経験のある人は少なく不安な面もありましたが、逆に、新しい発想によるアイデアが次々と生まれることとなりました。幅広い年代の多くの同窓生に参加していただき、楽しい思い出になるような会にしたい、ということを目指して様々な企画が提案され、各担当を決めて準備を進めました。並行して、飯田の幹事とも協力して32回生の「搜索」を行い、幹事会への参加を呼びかけました。幹事団は最終的に50名を超えました。

特に工夫した企画のひとつが、第2部を講演会&演奏

インし、左袖に校章を入れました。このTシャツの制作コンセプトが32回生の思いであり、11月11日の在京同窓会のテーマにもなりました。

当日は、幹事団は飯田水引のブローチをつけ、42回生が精力的に五平餅を焼いてくれました。32回生飯田メンバーは懐かしの高松パンの焼きたてを運んできてくれて販売ももちろん、完売です。東北や関西から駆けつけてくれた仲間もいて、2次会も大いに盛り上がりました。

「郷土愛と母校愛を醸成し、同窓会生をつなぐ」

オリジナルTシャツは好評を博し、当日参加できなかった方も含め約230名の同窓生の手に渡りました。年末の花園でのラグビー応援や、「飯田ゆかりの地を歩こう会」でも着用され、郷土愛と母校愛を象徴するものとなっています。

32回生幹事団も様々な活動？(飲み会、ゴルフコンペ等)を継続しています。旧交を温めるだけでなく、新たな人脈が広がることも同窓会のおかげです。このつながりは大切にしていききたいと思っています。

幹事として在京飯田高校同窓会に参画する機会をいただきましたことに感謝申し上げます。今後も同窓会の活動にできる限り協力させていただきますと思います。